



平成16年（行ウ）第43号 公金支出差止等請求住民訴訟事件

原告 齋田友雄外18名

被告 群馬県知事外1名

証拠説明書（甲B72～78号証）

2008（平成20）年10月3日

前橋地方裁判所民事第2部合議係 御中

原告ら訴訟代理人

弁護士 福田 寿 男

ほか41名



号証	標目 (原本・写しの別)	作成 年月日	作成者	立証趣旨
B 72 の1	高崎の地図 写	平成10年 12月1日 発行	国土地理 院	「利根川上流域における昭和22年9月洪水（カスリーン台風）の実態と解析」（利根川ダム総合管理事務所昭和45年4月）においては、八斗島地点で毎秒26900トンの出水があるとの前提のもとに、上流部の氾濫想定がされているところ、その氾濫想定図を、市販されている5万分の1の地図に図示したもの。 氾濫するはずのない場所が氾濫したことになる等、大きな問題があること。
B 72 の2	前橋の地図 写	平成10年 3月1日 発行	同上	同上
B 72 の3	沼田の地図 写	平成15年 3月1日 発行	同上	同上
B 72 の4	富岡の地図 写	平成7年 4月1日 発行	同上	同上
B 72 の5	榛名山の地図 写	平成10年 3月1日 発行	同上	同上

B 73	増補 洪水と治水 の河川史 抜粋	写	2007年 5月10日	大熊孝	ダムによる治水には限界があること。 越流しても破堤しないように堤防を強化 すべきであること。 等
B 74	利根川における治 水の変遷と水害に 関する実証的調査 研究(下)	写	昭和48年 12月	同上	【書証の説明】 作成者の東京大学大学院における博士論 文である「利根川における治水の変遷と水 害に関する実証的調査研究」の表紙及び目 次 (甲B58の原本)
B 75	カスリーン台風に よる群馬県内の被 害のまとめ	写	2008年 7月24日	嶋津暉之	カスリーン台風による被害を集計したも の
B 76	八ッ場ダムの計画 最大流入量 3,900m <sup>3</sup> /秒の検討	写	同上	同上	八ッ場ダムの洪水調節計画では最大で 3,900m <sup>3</sup> /秒の洪水がダムに流入し、その うち、2,400m <sup>3</sup> /秒を調節し、1,500m <sup>3</sup> /秒を放流することになっているところ、 この3,900m <sup>3</sup> /秒は実際の洪水流量が比 べてきわめて過大な値であること
B 77	利根川上流域洪水 調節計画に関する 検討	写	昭和44年 3月	建設省 関東地方 建設局	【書証の説明】 建設省が、昭和44年時点において、昭和 22年9月洪水(カスリーン台風)の八斗 島地点での流量について、26500トンとの 解析をしていたこと。 等
B 78	大熊孝証人に示し た書証綴り	写	2008年 7月29日	弁護士 只野靖	大熊孝証人に示した書証を抜粋したもの

以上